

平成19年度
(社)日本家政学会関西支部総会および見学会・ミニシンポジウム報告

日時：平成19年4月21日(土) 午前10時～午後4時30分
会場：奈良女子大学記念館〔重要文化財〕2階講堂 (近鉄奈良駅 1番出口 北へ徒歩約5分)
奈良女子大学奈良町セミナーハウス (近鉄奈良駅 南東へ約20分)

【見学会】 午前10時～11時20分 (奈良女子大学 奈良町セミナーハウス)

講演：「伝統的町家を活用したセミナーハウスでの取り組み」

増井 正哉 (奈良女子大学)

講演後、奈良町見学

参加者：26名

見学会の内容：セミナーハウスの補修にともなう学生主導の活動の紹介とその後の一般公開に伴う利用の仕方、これからの運営などについて約一時間講演を行い、その後奈良町の実際の建物(俵座・奈良物語館など)をみながら、奈良町の建物の特色について解説した。

【総会】 午後1時30分～2時20分 (奈良女子大学記念館 2階講堂)

- 1) 平成18年度事業報告および会計報告・会計監査報告
- 2) 平成19年度事業計画(案)および会計予算(案)
- 3) その他

参加者：参加者54名 委任状211名

総会の議事：会員の4分の1に達し、総会は成立した。またすべての議案が可決された。

【ミニシンポジウム】 午後2時30分～4時30分 (奈良女子大学記念館 2階講堂)

テーマ「古都奈良をフィールドにした地域密着型教育の試み」

趣旨説明：宮坂 靖子(奈良女子大学)

パネラー：「現代GP全般の説明」 井上 芳恵氏 (奈良女子大学 現代GP)

「奈良漬プロジェクト」 山口 智子氏 (奈良女子大学)

「奈良きたまちの町づくりと大学との連携」 山口 育彦氏

(現代GP懇談会委員・奈良街道まちづくり研究会事務局長)

「『女性起業家から学ぶ』にかかわって」 湯脇 智子氏

(現代GP懇談会委員・株式会社なら町長屋社長)

コーディネーター：中山 徹 (奈良女子大学)

参加者：71名

ミニシンポジウムの内容：学生の主体的意志を尊重した地域密着型教育の例として奈良女子大の現代GPの試みが紹介された。学生の生活に密着した問題意識から始まった取り組みが、共に住む地域の住民や企業家との共同ワークを経て学生ならではの発想を生かした問題解決へと繋がり、学生に達成感を与えたことが報告された。また会場の会員大学の試みも紹介された。大阪人間科学大学は、商店街活性化のために空いていた借家の修復を学生自らが行き、環境とアートも街づくりをしている。また甲南地域の大学では、学生の自主組織と大学、行政の連携によって学生が企画をたて、行政や民間企業に立案し地域紹介マップづくりや神戸空港の広告などを手がけたことが紹介された。グローバル化がクローズアップされる中で身近な地域社会の中でどのように学生と住民が繋がっていくかを学ぶことによって、社会人として自立できる学生の育成と大学の地域貢献の未来図が展望できた。



セミナーハウス見学会の様子



総会・ミニシンポジウム会場
(奈良女子大学記念館)



ミニシンポジウムの様子



ミニシンポジウムの様子